

地域おこし協力隊通信

vol.56

集落支援担当 中井正幸隊員



皆さん、初めまして。協力隊通信初登場の中井です。今年4月から問寒別に住み、集落支援活動をしています。稚内出身で、約30年間過ごした宗谷を一時離れていましたが、久々に戻ってきました。

さて、問寒別で生活をする中で気づいたことがあります。「人工的な音が少ない」ことです。日課である犬の散歩をしていると、色々な鳥の鳴き声ははっきりと聞こえ、身近に様々な鳥達が存在していたことに気づくようになりました。「人工的な音が少

ない」＝「田舎だから」という後ろ向きな考えではなく、小さな生き物の息遣いをすぐそばで感じられることが問寒別の魅力かもしれないですね。

そんな発見も見つかる問寒別ライフですが、最近、「わんわんパトロール隊員」という町の防犯、地域見守り活動の存在を知りました。散歩する際、愛犬に「パトロールバンダナ」をつけ、飼い主が「パトロール袋」を持って歩くことで、防犯活動の「見える化」を図り、犯罪抑止の一助とする取り組みだとか。散歩中に不審なことに気づいたら、駐在所に通報をします。早速隊員登録を行いました。登録メンバー同士で交流会などでできれば面白いかもしれませんね。興味のある方は住民生活課生活グループ（5-1112）に問い合わせてみてください。

コロナ渦に揺れた春、徐々に社会活動が再開してきた中で幌延町に訪れる短い夏を楽しく過ごしたいと思います。



黄色いバンダナをつけて散歩するフーちゃん

観光振興担当 大川修史隊員



皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の大川です。トナカイ観光牧場では、5月17日に今年最初のトナカイの赤ちゃんが生まれ、そこから6月上旬までに計5頭が誕生しました。生まれたばかりの赤ちゃんでも体は意外と大きかったので驚きました。その後も母乳を飲んですくすくと育っており、この記事が皆さんに読まれているところには、牧区内を元気に駆け回るくらい成長しているのではないかと思います。

さて、牧場横にあるノースガーデンでは多くの花が咲き始め、6月に入るとブルーポピーが次々と開花していきました。新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ取り組みとして行われていた移動制限も国内では徐々に解除されていき、町内にも観光客がちらほら訪れるようになりました。

今年はお祭りなど夏のイベントが全国で行われない年になると思いますが、そんな中でも来年の集客につながるように幌延の魅力を発信していきたいです。

新型コロナウイルス感染症の騒ぎが終息に向かい、少しでも町内が観光客でにぎやかになってくれることを願っています。



エサを食べ、成長するトナカイの赤ちゃんたち



ノースガーデンで、鮮やかな水色の花を咲かせるブルーポピー

お問い合わせ先：地域おこし協力隊問寒別事務所
(観光振興)企画政策課 企画政策グループ

電話・告知端末機：9-7367
電話5-1114 告知端末機：5-8814